

小泉八雲とセツ

縁の地を巡る

Koizumi
Yakumo & Setsu



写真提供：小泉八雲記念館

「耳なし芳一」や「雪女」などの怪談の著者として知られる作家・小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)は、ギリシャで生まれアイルランドで育ちました。若いころから両親の離婚や左目の失明など困難を重ね、19歳でアメリカに渡って新聞記者として活躍したのち、39歳の時に来日して、英語教師として松江に赴任しました。

1年3ヶ月の松江の暮らしの中で、妻である小泉セツから聞いた松江に伝わる不思議な話を元に、独自の解釈を含めながら多くの再話作品を著しました。彼の著作は、当時の欧米において「神秘的な東洋」のイメージを強める一方で、日本文化への理解を深める貴重な記録ともなりました。

小泉セツは、松江藩士・小泉家に生まれました。松江に赴任した八雲の身の回りの世話をするために雇われ共に過ごすようになり、やがて二人は結ばれます。セツは伝統的な日本の生活様式を守ることで、八雲が日本文化を深く理解する手助けをし、特に怪談や民話を語ることで、彼の作品に大きな影響を与えました。

小泉セツは2025年秋放送の連続テレビ小説「ばけげんや」主人公のモデルです。



小泉八雲とセツが出会ったまち 松江

小泉八雲・セツのドラマをイカしてバケる 松江推進協議会公式ロゴマーク

松江市では小泉八雲・セツをモデルとした連続テレビ小説を契機に観光振興を図る目的で統一ロゴマークを製作しました。使用品の有償・無償を問わず、多数の事業者・団体等に使用いただけます。申請の上ぜひご活用ください。



キャッチコピー
「あけ、そげ、ばけ」に
込められた意味・
申請方法はこちらから

小泉八雲・セツゆかりの地

小泉八雲記念館



小泉八雲旧居に隣接して、八雲に関する資料を展示・公開する小泉八雲記念館があります。八雲の没後、松江出身の岸清一博士や八雲の愛弟子たちの募金活動によって、1934年に開館しました。2016年にリニューアルし展示を一新。八雲の「オープン・マインド」をコンセプトにその生涯を編年で紹介するほか、八雲の直筆原稿や初版本・愛用の机・椅子・衣類などの遺愛品を中心に展示されています。

島根県松江市奥谷町322 ☎0852-21-2147 📠0852-21-2156

小泉八雲旧居



松江藩士の娘・小泉セツと結婚した八雲は、かねてから念願だった松江城堀端の武家屋敷で暮らし始めました。熊本へ転任するまでの約5ヶ月、セツと共に過ごしたこの家を八雲はとても気に入っていました。八雲が好んで眺めた庭園などがそのまま残されており、著書『知られぬ日本の面影』の中でもこの庭のことを詳しく描写しています。ここでのセツとの生活を通して、八雲は日本の原風景や日常生活の美しさを再発見しました。

島根県松江市北堀町315 ☎0852-23-0714

【開館時間】

小泉八雲記念館・小泉八雲旧居共通/4月1日—9月30日：9:00—18:00(受付は17:30まで)、10月1日—3月31日：9:00—17:00(受付は16:30まで)
年中無休(館内メンテナンスのため、年6回の休館日をいただきます)

【入館料】

小泉八雲記念館/●大人：個人600円、団体割引480円、松江市民割引300円 ●小・中学生：個人300円、団体割引240円、松江市民割引150円
小泉八雲旧居/●大人：個人400円、団体割引320円、松江市民割引200円 ●小・中学生：個人200円、団体割引160円、松江市民割引100円
※団体割引は20名以上 ※松江市民割引は、松江市内にお住まいの方が対象です。ご住所が確認できる身分証(運転免許証、マイナンバーカードなど)をご提示ください ※障がい者手帳、療育手帳などの所持者及び介護者1名は無料
2館共通券(小泉八雲記念館・小泉八雲旧居)/●大人：800円 ●小・中学生：400円
3館共通券(松江城天守・小泉八雲記念館・武家屋敷)/●大人：1,440円 ●小・中学生：720円

小泉八雲・セツゆかりの地

城山稲荷神社



八雲は通勤途中にある城山稲荷神社をいたく気に入って、しばしば訪れました。境内に様々な表情で並ぶ大小数百の石狐が八雲のお気に入り、中でも隋神門前の一対の狐を一番好んでいたといいます。八雲が愛した狐は、現在は傷みがはげしいため場所を移され、2代目の石狐が門前で出迎えてくれます。

島根県松江市殿町449-2 ☎ 0852-21-1389

出雲大社



1890年、八雲は外国人として初めて、出雲大社の本殿へ昇殿することを許されました。千家尊紀（せんげたかのみ）宮司の案内による正式参拝です。神聖な境内、宮司や神官たちの衣裳や所作、古代から続く祭祀などに深い感銘を覚え、日本人の魂の奥底にふれた感動を著書に記しています。

島根県出雲市大社町杵築東195 ☎ 0853-53-3100

松江大橋周辺



1890年の夏、松江大橋近くの船着場に汽船で到着した八雲は、対岸の富田旅館に泊まりました。著作『知られぬ日本の面影』の中で、脈拍のように響く米つきの音や、大橋を渡る下駄の音、山々や宍道湖にたなびく朝もや、朝日に向って拍手を打つ姿など、松江大橋沿いの朝の光景を感動を込めて記しています。

松江大橋／島根県松江市末次本町

八雲広場（隠岐）



1892年8月に、八雲とセツは隠岐へ旅行し、海士町の菱浦湾畔にあった岡崎旅館に滞りました。鏡のように穏やかな入り江を見て「鏡ヶ浦」と名づけたといわれ、その時の様子を『知られぬ日本の面影』の中に記しています。現在、旅館のあった場所は小さな公園となり、石碑や八雲とセツの夫婦像が建てられています。

島根県隠岐郡海士町

怪談スポット

月照寺



松江藩主松平家の菩提寺で、初代直政から九代斉斎までの墓があります。境内にある大きな亀の背ののった石碑は六代藩主の寿蔵碑で、八雲はこの大亀が夜ごと町へ出て暴れたという怪談を紹介しています。「山陰のあじさい寺」として観光客に人気で、八雲はこの寺をこよなく愛したそうです。

島根県松江市外中原町179 ☎ 0852-21-6056

普門院



普門院は、松江藩の初代藩主である堀尾吉晴公が、松江城鎮護の祈願所として開山した寺院です。また、著作『知られぬ日本の面影』の中で怪談「小豆とぎ橋」ゆかりの場所として紹介されています。庭園を眺めながら、抹茶や季節の和菓子をいただくこともできます。

島根県松江市北田町27 ☎ 0852-21-1095

松江城



松江城は、松江開府の祖・堀尾吉晴とその子忠氏によって築城されました。八雲が紹介する松江城にまつわる怪談には、築城工事が難航した際、美しく踊り好きな娘が人柱にされてしまい城は完成したものの若い娘が躍るたびに天守が震えるようになり、ついには城下に盆踊り禁止令が出されることになった、というものがあります。

島根県松江市殿町1-5 ☎ 0852-21-4030

大雄寺



大雄寺（だいおうじ）は松江開府の際、安来市広瀬町より移転しました。山門前にある川は松江城の堀川に通じており、松江藩主松平直政は舟を使って出入りしたといわれています。ここは八雲が「母の愛は死よりも強し」と紹介した怪談「水飴をかう女」の舞台です。

島根県松江市中原町234 ☎ 0852-22-1468

